



あみねこ第一号制作過程

図書館で、ねこやまさんのとってもかわいいあみねこ本を見つけて、編み心が、再燃したんである。



梅雨も明け、猛暑スタート日々の中、じわりとはじめる、かぎ針作業。



合細程度の細いウール糸、久し振りにきっちりきちきち編むタイプ、手が草臥れる。



ドラえもんの手的なるもの。



しかし猫型ロボット、というわけではない。



パーツ編み完了。



細い糸でちまちま、ついムキになってしまう。
もう、手も肩がピキピキのシビシビ、目がチカチカ。
いかん～。



しかし形になってくると嬉しい。仕上げの尻尾縫合手術。



ひい、できた～！

拵えたものは制作者に似るといふ、ので、ちょっと真面目に正座猫。



やっぱし、もちまへん。

ぐたり、おやすみなさいん。

あみねこ第一号あれこれ

あみねこ君、お腹の底と手足の先っぽにズシッと感のあるペレットが入ってるので、座ったりするとき、安定性がよいのです。ポーズがさまになるのだ。

そして寝るのが得意である。

まるまって熟睡。



「え、朝〜？」



そして、本日のニュースなどチェック。

この情報化社会、現代猫として生まれたからには、日々、情報を集め吟味し思索せねばならぬのだ。



「おっ、これは...」

膝を正しております。興味深いニュースか...？



しかし、梅雨明けした途端の、激しい猛暑。
朝からこのもわもわじゃあ、もうやってられまへんわ〜。
すぐゴロリ猫。



お腹が空くと、なんかいいものがないかと、あちこちつつきまわして探したりする。



そして、どうも一匹ではさびしいらしい。

兄弟が欲しいらしい。

「...じゃあ、このお色でご兄弟なんか、いかがでしょう？」

「ふーん、ちょっと地味だが、ま、いいんじゃない？」

エラソー。



あみねこ、弟誕生

あみねこ君の弟企画、何色がいいかなあ、などと考えていたら、「オレンジ作って、オレンジ！」と、オレンジ色愛好者からの声が届いた。

生憎、ヤマモモは、昔から地味なジミーだったので、鮮やかなオレンジ色の糸って、持ってない。せいぜいが、とっても地味なくすんだ人参色。



こんな地味ジミでもいいかのう、と聞いてみたら、とりあえず人参もヨシのGOサイン。ヨシ、このまま、GO。



人参猫、生首状態。

「弟、早く生まれろ。」



オマエ、あとは手足だな、頑張れ。...初めての弟は可愛いのを。

...そして翌日。

ついに、誕生！

アレ...どうした？



生まれてきてごめんなさい、ぶたないで〜っ！

...ぶたないよ、いちめないよ。



兄ちゃんと一緒に夏のお昼寝しような。



暑い日は、行水に限るな。



木登りだって、兄ちゃんが教えてやるぜ。



な、オレたちこれから未来系なんだぜ、弟よ。
「兄ちゃん、オレにも弟欲しいな。」
「そうだな、いっぱいの方が楽しいもんな。」
「どんな弟がいいかな。」

「なるべく元気で明るいおめでたいのがいいな。」



「しかしホントに派手だな...」

「うん、兄ちゃん、すごい色だね。」

「まあな、オレたちふたりとも、ちょっと地味めだからな、こんなヤツがひとりいても、まあいいだろ。」

「あんまりナマイキにならないといいなあ。」



生まれた早々、
...寝とるのう...



あみねこの生まれた日

<http://p.booklog.jp/book/45260>

著者 : yamamomon

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/yamamomon/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/45260>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/45260>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.